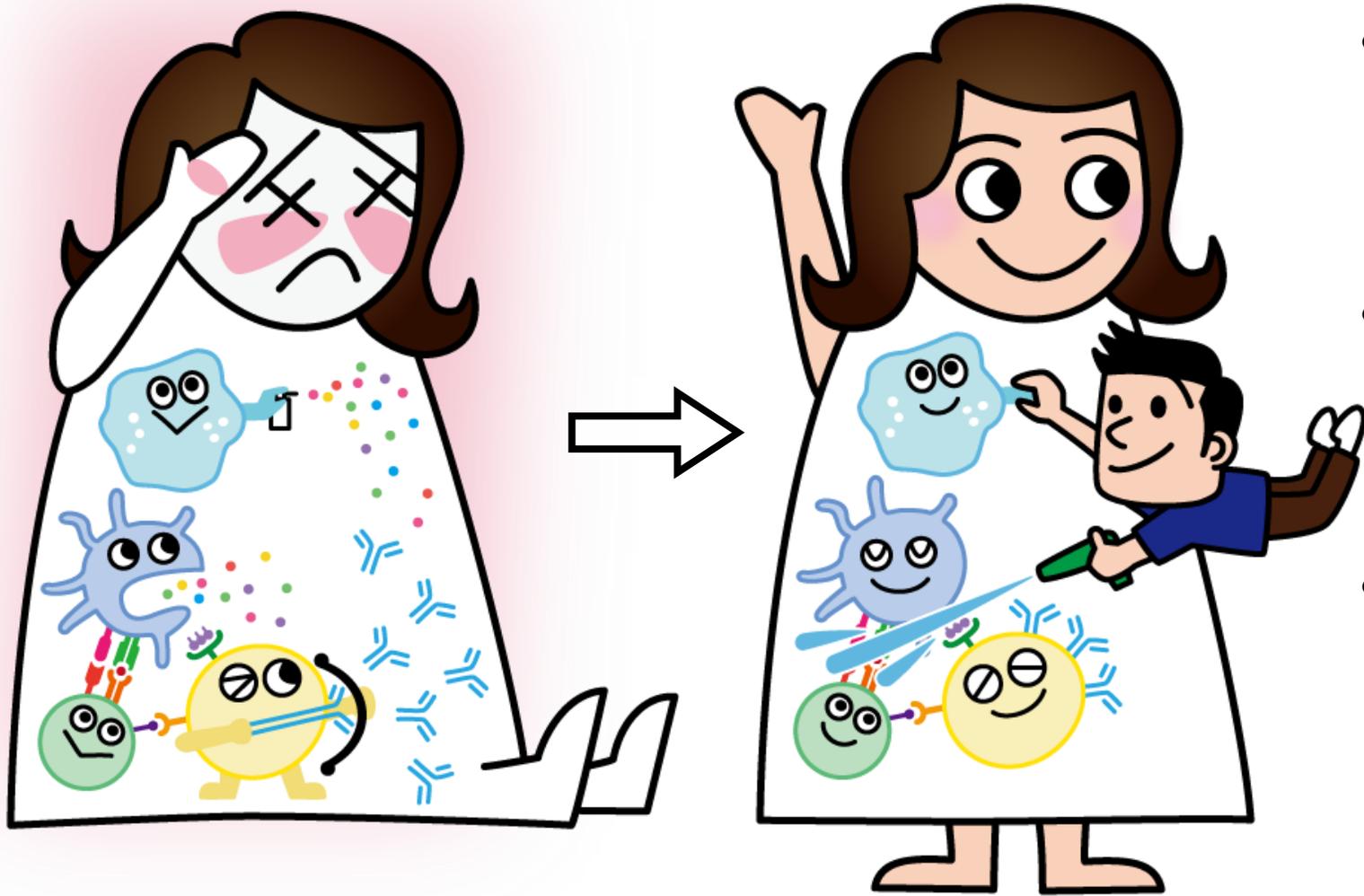


# はじめに (2021.04.26)

神戸市立医療センター中央市民病院 膠原病・リウマチ内科  
住友 秀次

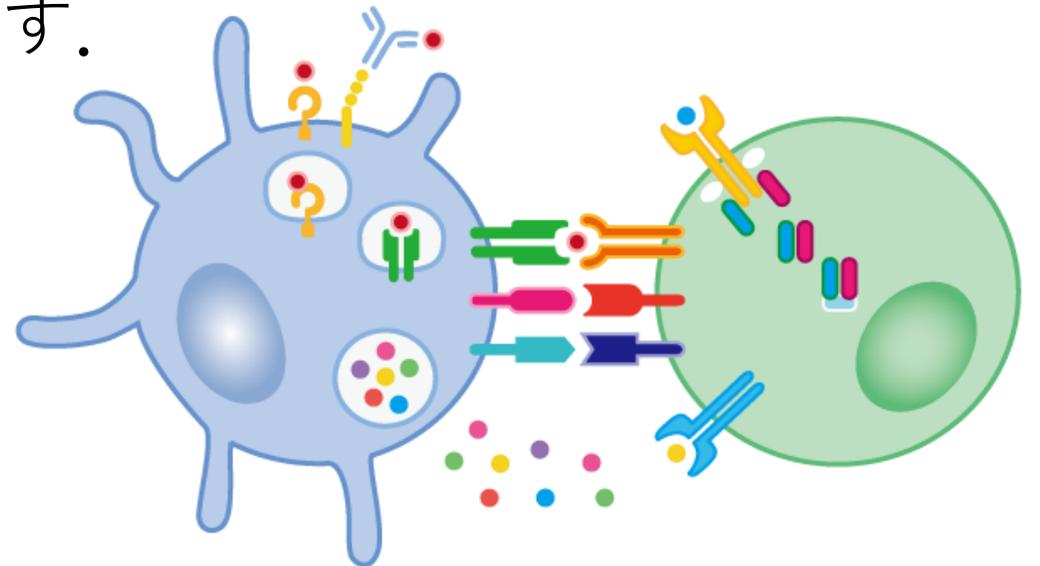
# 膠原病・リウマチ性疾患とは？



- 免疫システムが自己を攻撃し，発熱や関節炎，臓器障害を認める疾患です。
- 自己免疫反応をうまくコントロールすることが，治療には必要です。
- 膠原病・リウマチ性疾患の診療には，基礎医学と臨床医学の知識が求められます。

# 基礎医学の知識とは？

- 各疾患で、「**どの細胞**」「**どの分子**」が重要かを知ることが、治療選択の上でも必要になってきます。
- 特定領域の専門的な知識より、「広くて浅い」知識が有用です。Reviewで概要を把握するので十分だと思います。
- Updateは必要です。新規分子標的薬が開発され実用化されるサイクルはどんどん早くなっています。
- 頑健な因果関係であるGWASや、次々発表されるOmics解析結果も、重要な成果は知っておいた方が疾患の理解が深まります。



# 臨床医学の知識とは？

- EULAR, ACR, JCRのRecommendationは、重要なエビデンスのシステムレビューなので、必ず目を通す必要があります。
- Recommendationの背景にあるepoch-makingな文献は、原著にあたり、これまでの「**エビデンスの流れ**」を把握しておく必要があります。
- 流れの把握があれば、新たな文献のどこに新規性があるのか、また治療を選択する上で何がポイントになるのか、深く理解することができます。

Annals of the  
**Rheumatic Diseases**

**A**rthritis  
&**R**heumatology

**RHEUMATOLOGY**



The NEW ENGLAND  
JOURNAL of MEDICINE

**THE LANCET**

**JAMA**<sup>®</sup>

# 本講座の目指すもの

- 各疾患における基礎医学的な理解は治療選択上も重要ですが、概要のみ把握するにしても、非常に広範囲にわたります。
- 次々に発表される臨床試験を理解するために「エビデンスの流れ」も重要ですが、これも多くの文献を読む必要があります。
- 本講座の主目的は情報共有にあります。私が実際に診療をする上で重要と考える資料を、**一覽性を重視**してまとめています。
- 膠原病は、自己免疫という「見えないもの」を対象にしているものの、概要が一覽できれば理解しやすい領域です。
- この講座を通じて、「なぜその疾患がおきるのか」「なぜこの薬剤が有効なのか」の考えが深まる一助になればと願っています。

# 本講座の主な構成

## 基礎的知識のまとめ

1. Reviewから病態を把握する(必要なら原著を確認).
2. GWAS・Omics解析結果を把握する.
3. 自己抗体に病的意義があるかどうかを考える.
4. 「どの細胞」「どの分子」が重要かを考える.

## 臨床的知識のまとめ

1. 分類基準を確認する.
2. Recommendationを確認する.
3. 重要な臨床試験の原著を確認し、「エビデンスの流れ」を把握する.
4. 分子標的薬の試験結果から病態生理を推測する.

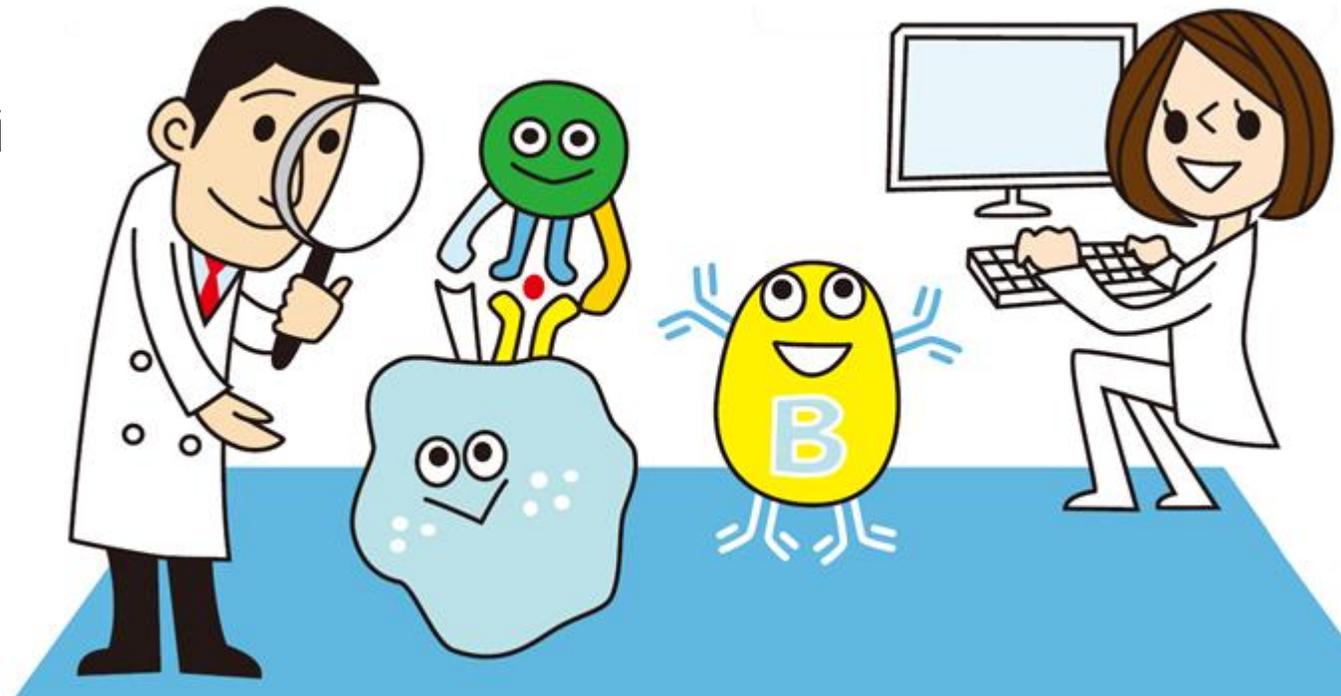
# 予定しているテーマ

1. **RA** : 関節リウマチ
2. **SLE** : 全身性エリテマトーデス
3. **SSc** : 全身性強皮症
4. **IIM** : 特発性炎症性筋疾患
5. **AAV** : ANCA関連血管炎
6. **GCA/TAK** : 巨細胞性動脈炎, 高安動脈
7. **SS** : シェーグレン症候群
8. **APS** : 抗リン脂質抗体症候群
9. **SpA/PsA** : 脊椎関節炎, 乾癬性関節炎
10. **BS** : ベーチェット病

11. **IgG4-RD** : IgG4関連疾患

12. **AOSD** : 成人ステイル病

13. **自己炎症性疾患**



# さいごに

- 本講座の内容は、住友個人の見解であり、所属する組織の見解ではありません。
- 出典を明記するよう心がけています（ちなみにこのPDFのイラストは私が描いたものです）。
- 当面は月1回のペースで更新します。また適宜updateも行い、更新日をタイトルに記すようにします。
- 各ページ2Mbまでという容量制限があるため、低画質な資料もあるかと思いますがご容赦ください。
- ご意見がありましたら、当科メールアドレスまでご連絡下さい (c\_rheumatology@kcho.jp)。